

## (平成30年度単年度経営計画)

(公財)京都伝統産業交流センター	平成30年度経営計画 兼 経営努力結果
------------------	------------------------

## 基本事項

所管局課	産業観光局商工部伝統産業課	本市出えん金	5,000 千円
基本財産/資本金	11,000 千円	本市出えん率	45.5 %

## 「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

方向性	存続	目標年度	-
-----	----	------	---

## 「今後の方向性」に向けた基本的方針

業務面	伝統産業に関する普及・啓発事業の実施を基本としながら、職人と職人、職人と異業種などの交流促進や伝統産業製品を幅広い層に使っていただくための販売促進に取り組むことにより、伝統産業業界の活性化を図る。
財務面	伝統産業製品の需要拡大につながる販売促進や京都伝統産業ふれあい館の機能充実などにより自主財源を確保し、財政の安定化を図る。
組織面	京都伝統産業ふれあい館の展示内容において、入館料有料化も見据えて企画展示の重要性が高まることから、高い企画力と調整力を有する専門の職員を配置するなど、施設の魅力向上に資する人員体制の強化を図る。
その他	特になし

## 当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>総合プロデューサーを中心に、企画展を充実させ、異業種交流や工房訪問事業などの多くのソフト事業を実施したことで、認知度の向上により入館者数も2年連続で増加しており、世界最大の旅行口コミサイトにおいて国内第5位に選ばれるなど結果も出てきている。</p> <p>今後も引き続き、業務面・財務面・組織面それぞれの分野においてしっかり取り組んでいただき、さらに京都の暮らしと文化を育んだ本市の伝統産業の振興を担う「核となる施設」として、積極的に展開していただきたい。</p>
-----	---

## 当年度の「今後の方向性」の進捗状況及び各取組に対する総括(※)

団体	令和2年3月の京都伝統産業ふれあい館のリニューアルオープン後の運営を見据え、全ての事業について課題の洗い出しや今後の在り方等を検討し、一部は見直しにも着手した。また、伝統産業品の販売についても、法人記念品の個別のオーダーにもきめ細やかに対応し、販売促進に努めた。
所管局	<p>企画展や、異業種交流、工房訪問事業などの多くのソフト事業を実施したことで、世界最大の旅行口コミサイト「トリップ・アドバイザー」において国内の美術館・博物館第5位（前回は、国内の無料施設第5位）に選ばれるなど、評価できる。</p> <p>入館者については、昨年度比5.4%の減少となったが、一昨年度とほぼ同数の入館者を維持しており、安定した集客を図れていることは評価できる。</p> <p>今後は、リニューアルオープン後の運営を見据え業務面・財務面・組織面それぞれの分野において課題の整理・解決を図り、京都の暮らしと文化を育んだ本市の伝統産業を発信する拠点として、積極的な取組を進めていただきたい。</p>

(公財)京都伝統産業交流センター	平成30年度経営計画 兼 経営努力結果
------------------	------------------------

## (1)業務に関する取組

目標「伝統産業の魅力を伝える普及啓発施設としての機能の充実」	
中期経営計画 における取組	様々な角度から幅広い層に伝統産業への興味関心を持ってもらうため、「京都伝統産業ふれあい館」の展示スペースを有効活用し、伝統産業製品を網羅的に展示するのみでなく、個々の品目を横断的に包括するテーマによる企画展示など、独自のイベント等を実施する。
当年度目標	夏季など入館者が減少する時期を特に意識しながら特別な展示を複数回実施する中で課題等を抽出し、ふれあい館リニューアル後の企画展示の検討の材料とする。
当年度結果 (※)	入館者数が減少する夏季に、集客力のある「芸妓・舞妓」をテーマとした特別展を開催するとともに、これまで展示が難しかった収蔵品を集めた特別展を初めて開催することにより、一定の集客を図ることができた。 なお、企画展示の開催回数は、目標を下回ったものの、館内ギャラリーにおいて小学校と連携した展示を行うなど、閑散期の取組の充実を図った。

指標	独自の企画展示の開催回数 (単位：回)							
	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
中期経営計画	—		4		5		6	
実績	見込	実績(※)	目標	実績(※)	目標	実績	目標	実績
	3	2	4	2	—		—	

(公財)京都伝統産業交流センター	平成30年度経営計画 兼 経営努力結果
------------------	------------------------

## (2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)	
	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備考欄	
	予算	実績(※)	予算	実績	予算	実績		
経常収益	66,512	73,983						
経常費用	66,512	65,628						
当期経常増減額	0	8,355						
当期正味財産増減額	0	7,450						
資産合計	-	63,044						
負債合計	-	15,143						
正味財産	-	47,900						
うち累積損益額	-	36,900						

## 目標「伝統産業製品の販売促進機能の充実」

中期経営計画 における取組	常設展示場における展示物の販売、オンラインショップ及び法人向けの記念品販売など、当財団が持つ伝統産業製品の購入窓口を有効に機能させ、それぞれの窓口が得意とする異なるターゲット層から幅広く伝統産業製品の販売拡大につなげる。
当年度目標	オンラインショップによる個人向け販売はもとより、法人向けの記念品に対する需要を取り込んでいく。
当年度結果 (※)	平成29年度から導入した、伝統産業品の「記念品カタログ」の仕組みを活用し、保健福祉局から新たに受注することができた（「百歳長寿記念品カタログ」事業）。 今後も、既存の取組を有効に活用・応用し、法人向けの記念品に対する需要の取込にもつなげていく。

指標	伝統産業製品の提供事業における売上額							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		—		34,000		35,000		36,000
実績	見込	実績(※)	目標	実績(※)	目標	実績	目標	実績
	33,000	40,685	34,000	38,718	—		—	

(公財)京都伝統産業交流センター	平成30年度経営計画 兼 経営努力結果
------------------	------------------------

## (3)組織に関する取組

目標「ふれあい館のリニューアルを見据えた人員配置」	
中期経営計画 における取組	リニューアル後のふれあい館において重要性を増す企画展を定期的に魅力的な内容で開催していくとともに、その他ソフト事業との連携により業界全体の活性化に寄与するために必要な人員を配置する。
当年度目標	第1期中期計画期間中に始めた事業の総括を行うとともに、有効な事業については中長期的に継続可能な人員体制や手法の検討を行う。
当年度結果 (※)	各事業について現状の分析と今後の方向性の検討を行い、リニューアル後のふれあい館において重要となる企画展を手掛ける担当が必要であることから、平成30年度中の雇用を目指し人材を探していたが、採用には至らなかった（なお、平成31年4月1日から、新たに企画担当者を雇用済）。

指標	職員数 ※ ( ) 内は嘱託職員数 (単位:人)							
	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
中期経営計画	6 (1)		6 (1)		6 (1)		6 (1)	
実績	見込	実績(※)	目標	実績(※)	目標	実績	目標	実績
	6 (1)	6 (1)	6 (1)	6 (1)	—		—	